

# ふれあい つながり かわら版

## 小中教職員の協働による授業改善

白鷺小中学校 実践公開

白鷺小中学校で10月8日(金)に、國學院大學教授の田村学先生を講師としてお迎えし、公開授業と事後検討会、講演会を行いました。その時の動画を10月22日(金)まで市内教職員向けにオンラインで公開しております。本号ではその様子を紹介します。

### 公開授業(8年英語)

Research Your Topic

テレビ画面の向こうにいる来日後間もないALTに、比較表現を中心とした既習の知識を用いておすすめのランチの店を紹介することが本時の生徒のミッションです。白鷺小中学校が目指す「探究」の姿を、英語部会では、「既習の知識を用いて聞き手を意識しながら説明する姿」と定め、本時ではそのための手立てが工夫されていました。具体的には、既習の知識の活用が目が向くように、会話等でよく使う表現集を「英語の木」としてまとめ、一人一人がファイルしていることや、ペアで言葉を考えて後、別のペアや全体の場で伝えたり聞いたりする

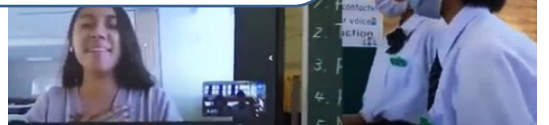


姫路市教育委員会  
学校指導課  
小中一貫教育・ICT教育推進係  
(079)221-2120



場を設け、フィードバックの機会としていることなどです。これらの手立てにより、生徒たちはよりよい説明のために何度も自分たちの原稿を見直し、改良を加えていました。

Hello, Jacky.  
Ekisoba is the best of the three.  
Ekisoba is very delicious.  
We don't have waiting time.  
Ekisoba is near your house.  
If you go to Ekisoba, you are happy.  
Why don't you go?  
Thank you for listening!



### 事後検討会

授業の事実・生徒の姿を根拠にして

グループ協議では、模造紙大に拡大した指導案に貼り付けたコメント入りの付箋を基に話し合いました。校種や教科が異なるメンバーでもすぐに前向きな検討ができるのは、普段から協働体制ができてくるからなのですが、**本時の目標を具体的な子供の姿で示すことや、目標に授業を検討することが大切にされていること**も注目すべき点です。田村先生の指導助言でも触れられましたが、「ALTの願いを叶える」という課題設定、「既習の知識の活用」に役立つツールである『英語の木』、「よりよい発表に向かうためのフィードバックの機会の設定」などが研究の成果として挙げられました。



### 講演「主体的・対話的で深い学びと学習評価」

國學院大學教授 田村学先生

「主体的・対話的で深い学び」と「評価規準」の関係性やそれを踏まえた評価規準の表し方について、豊富な事例を交えたとてもわかりやすい講演でした。

表現しづらい「思考・判断・表現」や「学びに向かう力・人間性」の評価規準の設定についても詳しい説明がありました。(田村先生の著書「学習評価」(2021 東洋館出版社)にも詳しく述べられています。)

以下、今後の姫路市の授業改善にあたって示唆的な内容をまとめてみました。先生方の授業改善や校内研修の推進の際の参考にしてみてはいかがでしょうか。

#### ① アウトプットの重視

個々の知識・技能をつなげ、深い学びに至るためには活用・発揮(アウトプット)させることが大切。授業の中で書く・話す活動をどれだけ巧みに準備するかにかかっている。知識・技能は使えば使うほど、相互につながる。

#### ② 子供の行為で表す評価規準

知識・技能が繋がった状態を具体的に言語化できるとゴールイメージが明確になる。子供が資質・能力を発揮しているかを判断するには、子供の姿、子供の行為が基になるため、評価規準は子供の行為で表す。

#### ③ 評価規準に基づく授業設計

評価規準をシャープで具体的に設定できると、授業の方向性や教師の手立てがより意図的なものとなり、授業の精度が上がる。

最後に、このような研修の場を提供していただいた白鷺小中学校の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。